

一般質問通告表

令和4年第2回始良市議会定例会（7月7日）

16. 松元 卓也	1. 施政方針について	<p>施政方針で市政運営の基本的な考え方や主要施策等の概要を述べ「成熟したまちへの成長」を目指し3つの大きな柱をたて、始良市のまちづくりのターニングポイントとなる時だと未来の始良市民のためにスタートを切った。</p> <p>そこで以下について問う。</p> <p>(1) 市役所の変革と職員の意識改革について具体的な成功ポイントを問う。</p> <p>(2) アフターコロナを見据えた経済・観光対策の推進について今後の見通し等を本市としてはどのように考えているのか問う。</p> <p>(3) 子育て世代への支援強化策である「全天候型子ども館」が2年後にオープンするが設置について場所や中身等を含め議論が尽くされた状態であると判断していいのか改めて問う。</p> <p>(4) 改正企業立地促進条例により、対象業種の拡充や補助金の要件を緩和したが、企業誘致について本市が情報提供できる場所や雇用機会の創出は具体的に考えがあるのか問う。</p> <p>(5) 商業の振興については、新規店舗の誘致や既存店舗の充実とは具体的にどのようなことを指すのか問う。</p> <p>(6) 今回、「ゼロカーボンシティ」宣言を行った。県内市町村において、何番目の宣言となるのか。また、後発の宣言の中で市民や事業所と共有するにあたり市民にも利点があることも望まれるがどのようなものを考えているか問う。</p>	市長
-----------	-------------	---	----

		<p>(7) 帖佐駅前周辺の市街地の構想について帖佐駅からイオンタウン始良までの県道整備は、市はどの程度県と共同で進める事ができるのか問う。</p> <p>(8) 今後の行財政運営について令和3年度から5年度までを「始良市財政健全化緊急対策」期間として行財政改革に取り組んでいるとのことだが、財政調整基金が令和3年度末の1年で8億円増額できた要因は何か問う。</p>	
17. 峯下 洋	<p>1. 市民の側に立った行政デジタル化について</p> <p>2. 健康チケットあいいいの今後について</p>	<p>(1) 行政デジタル化を推進していくためには、市民側のキーデバイスとなるマイナンバーカードの取得率の向上が必須である。総務省の統計によれば令和4年4月1日時点の始良市の取得率は40.4%となっている。国は来年3月31日までに100%を掲げているが、どのようにして達成していくか示せ。</p> <p>(2) 市民の側に立ち、市民に寄り添った形でのデジタル行政サービスを提供するためには、市民のデジタル機器へのバリアを取り除いていく必要もある。IT弱者と言われている人にもスマホ等の勉強会を市で主催していくことは考えられないか。</p> <p>健康チケットあいいいが、公民館講座やまち歩きなどにも使用できれば健康寿命の延伸にもつながる。利用範囲の拡大は考えられないか。また、支給額の増額も考えられないか。</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長 教育長</p>

	3. 行政窓口のデジタル化について	<p>(1) 市民のマイナンバーカード取得を促す一方で、行政窓口でのタブレットなどデジタル端末の導入が進めば、作業の簡素化や待ち時間の短縮、ワンストップサービスの実現化が可能と考える。今後の方向性やスケジュールを示せ。</p> <p>(2) 今後は機械で出来ることは機械に任せ、人でなければできないサービスにシフトすることをすべきと考えるがどうか。</p>	市長
18. 笹峯 桜	1. 始良市のまちづくりについて	<p>本市は、海、山、川、素晴らしい自然環境に恵まれ、交通アクセスも良く、歴史豊かなまちである。また、加音ホール、さえずりの森、ビーラインスポーツパークなど多くの魅力的で可能性を持つ公共施設を所有している。しかし、市外や県外からの訪問客に、「始良に来たら〇〇に行きましょう」と胸を張って紹介できるレベルであるかという、まだまだ施設の企画・運営面について改善の余地があるのではないだろうか。せっかくの場所や施設をより効果的に機能させ、コロナ終息後に多くの来客を見込めるイベントを開催するためにも、運営に力を入れていくべきではなかろうか。</p> <p>そこで以下について問う。</p> <p>(1) 本市は、これからの「まちづくりプラン」に関して、当局以外からのいわゆる市民のアイデアや提案を積極的に受け入れる姿勢はあるか。</p> <p>(2) あるとすれば、どのような手順を踏めばよいか。</p>	市長

	<p>2. 魅力ある子育て対策及び今後の教育ビジョンについて</p>	<p>(3) 市民協働のまちづくりプロジェクト機関を設置、もしくは委託される考えはあるか。</p> <p>本市は市外、県外からの移住者も多く、人口も増え続けており、重要な課題が、子育て対策だと考える。本市は全国屈指の「子育てをしやすい自治体」と比較しても、総予算のうち同程度の割合の予算を児童福祉に充てている。</p> <p>それを踏まえ以下について問う。</p> <p>(1) かごしま子育て支援パスポート、本市社会福祉協議会の学習・生活支援「マナビバ」など、本市の各種子育てサービスの利用率や利用者数の統計はあるか。あるいはその調査を行う考えはあるか。</p> <p>(2) 本市のホームページの子育てに関するページには、確かに各種サービスが掲載されてはいる。しかし、例えばトップページで「妊婦さん向けの情報」「保育園・幼稚園を探している方向けの情報」「子どもを一時的に預けたい方向けの情報」といったように、カテゴリに分け、必要な方がすぐに情報にたどり着けるようにするなど、ページの作りを改善する考えはないか。</p> <p>(3) 本市と同程度の予算規模で子育てに力を入れている自治体が、学習機会に恵まれない子どもに対し、受験対策を含めた学びの場を提供する目的でNPOに業務委託をしているケースがある。「貧困の連鎖」を止める施策として取り組む考えはないか。</p> <p>(4) 子育ての延長線上に、子どもの教育がある。今日では、一般的な大学</p>	<p>市長 教育長</p>
--	------------------------------------	--	-------------------

	<p>3. 国道10号の渋滞緩和について</p>	<p>進学だけではなく、専門性の高い高度な知識を身につけたい若者や、高校から海外留学を希望する若者も増えている。ところが、語学、芸術、IT、介護など非常に専門的な内容について地方では適切なアドバイスをもらえる相談窓口がない。民間タイアップでもいいが、中学・高校生のための「特設コンシェルジュ」のような相談窓口などを設置する考えはないか。</p> <p>(5) 本市では高等教育機関の設置をめぐり、都市部に立地する大学のサテライトキャンパスの誘致など様々な検討がなされている。しかし、この時代に、例えば大学を設立するとなると、サテライトキャンパスの誘致ではなく、IT関係や看護系など専門性の高い、特殊な資格を取得できるような県立大学等の設置を目指す方がメリットが大きいと思うがどのように考えるか。</p> <p>本市の今後の安定的な発展、企業の誘致を促進するためにも、国道10号の加治木地区の渋滞緩和を改善するために早急な対応が必要だと思うが、どのように考えるか。</p>	<p>市長</p>
<p>19. 大坪 祐輔</p>	<p>1. 公式LINEの有効活用について</p>	<p>(1) 市は現在公式LINEをどのように使用しているのか問う。 (2) 公式LINEの活用方法を問う。 (3) 公式LINEの登録者数は現在何名か問う。</p>	<p>市長</p>

<p>20. 有川 洋美</p>	<p>1. 市長の政治姿勢について</p>	<p>施政方針を中心に政治姿勢を問う。</p> <p>(1) 「成熟したまちへの成長を目指す」とのことであるが、そもそも「成熟したまち」とは何か。</p> <p>(2) 子育てと介護について、保育士の処遇改善への考え方を問う。あわせて介護士の処遇改善への考え方も問う。</p> <p>(3) 教育について、特別支援教育の充実のためには、抜本的な改革が必要である。特別支援教室はもとより、始良市に知的障害のある子どもたちのため県立特別支援学校誘致も視野に入れた取組が必要と考えるが見解を問う。</p> <p>(4) 安全・安心について、川内原発1号機、2号機の運転期限がせまってきている。原子力規制委員会が許可すれば、最長20年延長できるが、老朽化原発による事故の危険性も考えられる。福島原発事故の状態を考えると、拙速な判断をするべきでないと考えられる。原発立地自治体である薩摩川内市に隣接する始良市としての基本姿勢を問う。</p>	<p>市 長</p>
	<p>2. 自校式学校給食の可能性</p>	<p>始良市の小中学校では完全学校給食が実施されている。育ち盛りの時期に学校給食が果たす役割は大きい。</p> <p>学校給食の食材を地産地消で行うことで、始良市内の小規模農家を守ることになり、循環型の仕組みが構築されると考える。さらに始良市の有機野菜を積極的に取り入れることで、子どもたちの健康を守ることができる。生産者と子どもたちが見える関係となり、食で繋がることは、生きた「食育」にもなる。</p> <p>「食」とは五感を使うものである。子ども一人ひとりが持つ「感性」が最大に広がる楽しいことの一つが「食べる」</p>	<p>市 長 教育長</p>

		<p>ことである。そしてそれは1人で食べるのではなく、友だちや先生と楽しく食べる場が給食である。作った方々との会話もその一つである。</p> <p>以上を基本に考えると、自校式の学校給食は可能性に満ちあふれている。始良市には自校式学校給食が存在している。これを利活用しない手はない。自校式学校給食を大型給食センターに統合せず、残すことも検討すべきではないか。</p>	
21. 犬伏 浩幸	<p>1. 通学路の安全確保について</p> <p>2. 地域経済の活性化について</p>	<p>昨年、千葉県八街市において下校中の児童が犠牲となる痛ましい事故が発生した。</p> <p>その事故を受け、通学路における交通安全を一層確実に確保するために、「通学路における合同点検等実施要領」に基づき、これまで積み重ねてきた通学路の安全対策を踏まえながら、新たな観点を加えた通学路における合同点検等が実施されたと認識している。</p> <p>その経過と結果、また今後の取組（ハード及びソフト）を示せ。</p> <p>本市では、新型コロナウイルス感染症に係る経済対策として事業継続支援金給付事業や観光事業等継続支援給付金事業などを実施し、地域経済の活性化を推進してきた。</p> <p>一方で、長引く新型コロナウイルス感染症の影響や仕入れ価格の高騰などにより、特に中小企業・小規模事業者にとっては依然として厳しい経営環境である。</p> <p>本市の活力に繋がる地域経済の活性化策を問う。</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長</p>